

現実会話と小説内会話における引用文の使用傾向 — 「ッテ＋動詞」の形を中心に—

清水まさ子（国際交流基金日本語国際センター）[†]

The Usage of Quotations in Real-life Conversation and Pseudo Conversation: Focusing on “-tte+verb”

Masako Shimizu (The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

要旨

本発表は、「引用標識『ッテ』＋動詞」で表される引用文が、現実会話と小説内会話それぞれにおいて、どのように使用されるのかを調査したものである。調査の結果、レジスターが異なるといえども、「ッテ」に後続する動詞は「いう」が最も多いことがわかった。しかし現実会話中では、先行する話の内容の一部を再度引用して新たな表現として引用部に取り込む「ッテ＋いう。」引用文（例：いやでもこのままじゃなっていく。）が多く、一方小説内会話では、話し手の感情を表すために使われるような「ッテ＋いう」引用文（例：どうしたっていうんだ？）が多かった。

考察として、目の前いる相手の理解度や話の流れによって、再度同じ内容を挟みこみながら進んでいく「現実会話の特性」と、小説の読み手に対しても登場人物の会話に込めた気持ちを表していることになる「小説内会話の特性」の違いが、上記のような結果に影響したのではないかと考えた。

1. はじめに

本稿は、「引用標識『ッテ』＋動詞」で表される引用文が、現実の日常会話と小説内の会話それぞれにおいて、どのように使用されているのかを調査し、異なるレジスター間の話し言葉の特徴の一端を明らかにしようとしたものである。

今までにも、会話における引用文について記述した研究は多々あった。それらの研究では、多くがドラマのシナリオや小説内会話、また現実の会話といったレジスターの異なるものをまとめて「会話」と扱い、考察していることが多かった。しかし、実際の会話とフィクションの会話では、そこに表れる文法的振る舞いが異なる可能性を指摘する先行研究もある（小西2011）。

そこで筆者はレジスターの異なる引用文の特徴を今後調査していこうと思い、まずは引用文として代表的な「引用標識『ッテ』＋動詞」を対象に、異なるレジスター間でどのように使用されているのかを調査する。そして異なるレジスター間の使用傾向を比較することによって、現実の会話における引用表現の特徴の一端を明らかにする。

2. 先行研究

2.1 引用文について

藤田（2000）は引用について以下のように定義した。

所与と見なされるコトバを再現しようとする形で示すもので、そのコトバのまとまりが、そ

[†]Masako_Shimizu[at]jpf.go.jp

のようなものとして、文の構成要素として機能しているもの（同上,p9）

藤田では引用される言葉は、実際に発言されたかどうかは問題にしないため、「所与と見なされるコトバ」という表現を用いている。また、「所与と見なされるコトバを再現する形で」ではなく、「再現しようとする形で」としたのは、引用は元の言葉を再現するにも、その再現レベルがあるため、元の言葉を再現しようとする姿勢、それを表そうとしたからである。また、「そのようなものとして」とは、「引用されたコトバとして - つまり、所与のコトバの再現という表現性をもって、更にいうなら、所与のコトバを再現したものであることによる何らかの意味をもって、用いられているという意である」（p12-13）としている。

つまり、藤田でいう引用とは、実際に発言されたかどうかということは問題にせず、話者によって外に「ある」とされるコトバを話者が再現しようとし、その際に、引用だと相手にわかる形で表現され、それが文の構成要素として機能しているものであるとされている。本稿でも、引用の定義はこの藤田の定義を参考に、「話者によって外にあると見なされるコトバ—先行文脈で述べられたかは問題にはしない—を話者自身の談話中で再現しようとし、その際に引用だと相手にわかる形で表現されるもの」を引用とし、この引用の定義を満たした文を引用文と呼ぶ。

引用文は様々な型があるが、本稿では、加藤（2010）で提示された「発言引用の基本型」（同上,p24）および「思考引用の基本型」（同上）を参考に、以下のような引用標識「ッテ」と動詞を含む引用文を調査対象とする。

- ・(AはBに) Q って言う。
- ・(AはQ) って思う。

なお、上記では述部が「言う」及び「思う」になっているが、本稿ではその語に限らず、動詞が述部にくるものを対象とする。^{注1)}

2.2 レジスターの異なる話し言葉について

小西（2011）は、伝聞「そうだ」の出現形について、異なるレジスター間の出現傾向を見たところ、小説の会話文中には、他のレジスターではほとんど出現しない『『そうだ』+終助詞』や『『そう』+終助詞』が用いられていたと指摘した。そして「小説における会話文は、小説の執筆者によって執筆されたものである。それは、音声言語の特徴を取り入れながらも、読むことを前提に作成されたものであり、実際の音声言語とは異なる可能性が示唆される」（同上,p170-171）と述べた。さらに調査結果から2点が導かれたとして、その2点目に「…文字言語における会話文を音声言語そのものと同一視する危険性である。『作られた会話文』を基に調査を実施する際には注意が必要であろう。」（同上,p171）とした。

小西は「そうだ」を引き合いに、文字言語と音声言語の会話（ここでは小説内会話と講演や職場内会話）を混同して調査する危険性を説いたが、これはつまり、同じ「会話」同じ「文法項目」であっても、文字言語における「会話」と音声言語における「会話」では、異なる使用傾向が見られる、とも言える。

では、そもそも現実の日常的な話し言葉とフィクションの話し言葉では、何が異なるので

¹ 加藤ではこの他に、「Q っていう N」といった連体修飾として用いられる形や、「Q って（+コメント部）」といった提題や強調として使用される形も引用の基本型として取り上げたが、これらの考察は後稿に譲り、今回は対象としなかった。また同様に加藤で取り上げられている発話末の「って。」についての考察も後稿に譲った。

あろうか。金水（2014）では、現実の日常的な話し言葉とフィクションの話し言葉の違いを比較しているが、この比較で重要視されていることの一つは、フィクションの話し言葉は、現実の日常的な話し言葉と「…似ているようでも、それは作り手の意図に奉仕する形で利用されているのであり、あくまで作品のために再構成された言語である」（同上,p11）ことである。

例として、現実の話し言葉では、計画されて話すことはなく、その場の状況によって会話は作られるため、繰り返しや倒置といった「不整表現」やフィラーやポーズが多々入る。もちろんフィクションの会話でも用いられることはあるが、もし使われたりしたら、受け手はそこに「意味」を読み取るという（例えば、現実の日常的な話し言葉であればつかえることも多々あるが、もしフィクションの会話中にそれをするなら、受け手は話者のことを「ちゃんと喋れないほど慌てている」と意味を読み取る）。

小西が音声言語と文字言語による会話を混同して考える危険性を説いたのは、同じ会話でもフィクションの話し言葉には、金水が述べるような「作り手の意図」が含まれている可能性があるためであろう。この「作り手の意図」が含まれることが、フィクションの話し言葉をフィクションの話し言葉らしくしている一つの要因であろうと考えられる。

本稿では、このような両話し言葉の特徴の違いを踏まえながら、引用文の出現の仕方を比較してみたい。そして現実の日常的な会話における引用表現の特徴の一端を垣間見ることが目的とする。

3. 調査概要

3.1 調査対象

本稿で調査対象としたのは国立国語研究所が作成した『日本語日常会話コーパス』（CEJC）（小磯他 2017）のモニター公開版と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）である。

現実の日常会話（以下、現実会話と呼ぶ）は CEJC を、小説内におけるフィクションの会話（以下、小説内会話と呼ぶ）は BCCWJ の小説会話部分を調査対象とした。CEJC モニター公開版には、多様な場面・関係性の話者の日常会話が 50 時間分収録されている。BCCWJ も様々なジャンルの書き言葉が収録されているが、今回対象としたのは、図書館サブコーパス中の小説（1990 年代、2000 年代）であり、この中の会話部分を調査対象とした。会話文の認定には、BCCWJ の小説会話文に対する話者情報アノテーションデータ（山崎他 2019）を参考にした（2019 年 3 月時点のもの）。

3.2 調査手順

本調査ではオンライン検索システム「中納言」を使用し、CEJC 及び BCCWJ 内の、動詞の前に位置する「助詞-副助詞」の「ッテ」を検索した。小説内会話の調査に関しては、BCCWJ の図書館サブコーパスの小説で、1990 年代、2000 年代のものを特定して検索した。その後、調査対象の「ッテ」が小説内会話中に出現しているのか確認するために、上記の小説会話文に対する話者情報アノテーションデータ内の会話と照合した。

その後、「ッテ」に後続する動詞に注目し、今回の調査対象である「ッテ+動詞」という形において、どのような動詞が引用とともに用いられているのかを見た。そして、異なるレジスタ間で今回の調査対象がどのように使用されているのか、量的に、そして質的に比較した。

4. 調査

4.1 引用標識「ッテ」に後続する品詞

「ッテ+動詞」という形を調査する前に、「ッテ」の後ろにはどのような品詞が続くのか、その中で今回調査する「ッテ」に後続する動詞はどのくらいの割合を占めるのか調査した。その結果が、表1である。

表1の「文末」とあるのは、以下のような「ッテ」の後に何も後続していない場合である。

(1) 「夕方、お父さんに言われた。月子を傷つけないでくれッテ」

(松原敏春(1990)『男について』TIS ,BCCWJ LBe9_00011)(*傍線は筆者加筆)

また、「動詞」「名詞」「終助詞」とあるのは、以下のように「ッテ」の後にそれぞれの品詞が来る場合である。下の(2)~(4)の「ッテ」の後ろには、それぞれ「動詞」「名詞」「終助詞」が続いている。

(2) ほんとになんかだから始めるまでにどんなだろうッテ思うじゃん

(CEJC C001_002 387.196-392.189)

(3) 「おふくろおふくろッテ、お前、そんなにマザコンだったのか？」

(安西篤子(1993)『花ある季節』集英社,BCCWJ Lbh9_00078)

(4) 先生さ救急車で行くと一番早いんだッテな

(CEJC T005_005 420.114- 421.926)

最後「その他」とあるのは、(5)のように「ッテ」の後に副詞が後続したり、(6)や(7)のように擬態語や擬声語が来たりと、上の「文末」「動詞」「名詞」「終助詞」以外が来た場合である。

(5) 「(前省略) クレイトン以上に理解できないところがあるッテ、いつも思ってるの」(ウェイン・D・ダンディー(1990)『燃える季節』文芸春秋,BCCWJ LBe9_00036)

(6) 会話でお前できてねえじゃねえかって言われて阿部くんがじゃあもうふざけんなッテばーんて怒ったら

(CEJC T010_003 1249.753-1258.499)

(7) 「(前省略) このばあさんに感謝するだろうにッテ、ヒッヒッヒ！」

(チンギス・アイトマトフ(1990)『最初の教師・母なる大地』第三文明社,BCCWJ LBe9_00218)

表1 両会話における引用標識「ッテ」に後続するパターン

	文末	動詞	名詞	終助詞	その他	合計
現実会話	852(29.7%)	1683(58.7%)	114(4.0%)	47(1.6%)	172(6.0%)	2868(100%)
小説内会話	1587(36.3%)	1900(43.5%)	396(9.1%)	228(5.2%)	258(5.9%)	4369(100%)

表1を見てみると、両会話においても「ッテ」に後続する品詞は動詞が最も多かった。特

に現実会話においては過半数に動詞が後続していた。

4. 2 「ッテ」に後続する動詞の種類

「ッテ」に後続する品詞のうち動詞が最も多いことがわかったが、それではどのような動詞が後続しているのだろうか。

両会話において「ッテ」に後続する動詞を多い順から並べたのが表2,表3である。表3の動詞の()内は,同じ読みでも複数の表記があったため,まとめた。

表中の太字部分は,両会話中上位10位以内に共通して出現した動詞である。表2の,現実会話における「ッテ」に後続する動詞のうち,第4位,第6位,第10位の「なる」「やる」「ある」は,小説会話中においては,「なる」は1件,「やる」「ある」は0件であった。逆に,表3の小説内会話における「ッテ」に後続する動詞のうち,第7位,第8位,第9位の「おっしゃる」「知る」「約束する」は,現実会話においては,それぞれ2件,3件,0件であった。

表2 現実会話におけるッテに後続する動詞

順位	動詞	数
1	言う	1126
2	思う	226
3	書く	86
4	なる	47
5	聞く	36
6	やる	17
7	わかる	14
8	考える	11
9	呼ぶ	11
10	ある	7

表3 小説内会話におけるッテに後続する動詞

順位	動詞	数
1	いう (言う,イウ,云う,いう)	1173
2	思う	194
3	きく (訊く,聴く,聞く)	85
4	わかる (判る,分かる)	37
5	呼ぶ	32
6	書く	28
7	おっしゃる	24
8	知る	24
9	約束する	18
10	考える	16

上記の表を見ると,両会話とも「ッテ」に後続する動詞のうち,「いう」が最も多く,続いて「思う」が続いた。

次に,今回最も多かった「ッテ+いう」の例を出す。

- (8) で地区委員としては二年にいっぺんぐらいやりたいねってゆってました

(CEJC T007_017 969.577- 972.973)

- (9) 「この人,先生の写真を見て,怖そうな人だって言うんです。」

(内田康夫(1990)『王将たちの謝肉祭』,BCCWJ LBe9_00206)

以上のことから,両会話ともに「ッテ」に後続するのは「いう」が最も多く,また「いう」以外でも共通して用いられる動詞も多数あることがわかった。一方で,現実会話にのみ出現する動詞,小説内会話のみに出現する動詞もあることもわかった。

5. 考察

両会話における「ッテ+動詞」というパターンを調べたところ、上記のように両会話とも「いう」という動詞が続くことがわかった。

それでは、「ッテ+いう」という引用文の一形式をそれぞれの会話では、どのように使用しているのか。ここでは、それぞれの会話で特徴的であった「ッテ+いう」の形を質的に見てみる。

5.1 現実会話における「ッテ+いう。」引用文

現実会話において、以下の(10)のような「ッテ」に「いう」が後続し、そのまま文が終わるとい形式の文が 191 例あったが、小説内会話中では 3 例のみであった。「ッテ+いう。」という形式は現実会話に特有の文であると言える。

(10) この狭い机にさ椅子がはまらないっていう。

(CEJC K003_006 225.189-228.151)

この「ッテ+いう。」引用文を見ると、いくつかのパターンが見られる。一つは、前の会話に出てきた一部の内容に対して、倒置的に補足説明しているパターンである。

(11) 01 A で それを なんかみんなが知るチャンスにもなると思うし。

02 A そんな違いが世の中にはあるんですねってゆう。

03 A だから プレゼントとしても とても素敵なプレゼントになりますよってゆう。

(K002_010 1154.354-1164.771)

上記(11)は友人の自営業者に向けて、同じく自営業の話し手が、他店とは異なるある商品を店頭で並べる意義を説いている場面であり、すべて同一人物の語りである。冒頭でその商品を「なんかみんなが知るチャンスにもなると思うし」と言い、その「みんなが知るチャンス」が何かというと、続いて「そんな違いが世の中にはあるんですねっていう」チャンスであり、更に言えば「プレゼントとしてもとても素敵なプレゼントになりますよ」というチャンスである。

また次のように、話し手が前に話したことを再度、表現を変えて話す際の文末につくパターンも見られた。

(12) 01 A うちにいると一日口きかないこととかもあって。

02 B あ。

03B そうですよ。

04A いや。

05A これじゃいけないなと思って。

06B うん うん うん うん うん うん。

07B やっぱ誰かに接するのっていいですよ。

08 A そうなんですよ。

09A やっぱり ずっとたまに二三日とか まあなんか家でやることがあればうちにいるのもいんですけど。

10B うん。

11A まあま ネコもいるからそんな退屈もないんですけど。

12A いや でも このままじゃなってゆう。

13B あー。

(CEJC K002_003a 513.349-535.714)

上記(12)は、マッサージ施術をする元専業主婦の A と客の B の会話である。A は B に向かって主婦としてずっと家にいることに対する悩みを打ち明けているところだが、傍線「いやでも このままじゃなってゆう」の前にも、波線部に同様の意味を持つ「これじゃいけないと思って」が来ている。実はこの前にも「なんか何をすればいいんだろうって。今考え中とゆうか。」(461.479-463.271)や「なんかこのままずっと主婦ってゆうのも。」(471.771-474.354)といった同様の内容の悩みが繰り返し語られていた。

上記のように前に出た話の内容を繰り返す場合もあれば、次のように直前に出た話の内容を再度、表現を変えて話すパターンも見られた。

(13) 01A うちはどこらかってゆうと卸なので 同じアイテムをたくさん持ってってゆう。

02B うん。

(K002_010 1192.204-1194.591)

自分の店（卸売店）を説明する話し手が「うちはどこらかっていうと卸なので」と言った後に「卸」という店をまた説明するかのように「同じアイテムをたくさん」持っていることを説明している。

このように、「ッテ+いう。」文と言っても、使用されるパターンはいくつかあるようだ。他にも使用パターンはあるだろうが、それは後稿に譲る。

今回上記で述べた「ッテ+いう。」の場合、話し手自身が前に述べた物事の補足であったり、先述したことを他の表現で再度述べたりといった場合に使われていた。引用は「所与と見なされるコトバを再現しようとする形で示すもの」（藤田 2000）であると先行研究で述べたが、今回具体的に見た例では、話し手自身が前に話した内容を、自身でまた引用するという形で繰り返し会話に登場させていたところが特徴的であった。

5.2 小説内会話における「ッテ+いう」引用文

小説内会話に特有のパターンの一つとして、次のような「いう」の前に疑問詞を置き、「いう」の後には「のだ？」や「の？」を伴って、相手に対して説明を求めている文が見られた。

(14) 「どうした？」「酔ったんだ」とコリンはか細い声で答えた。「酔っただけだよ。もうよくなった」「いったい、どうしたっていうんだ？」

(ディーン・R・クーンツ/柴田都志子(訳)(1990)『闇の囁き』光文社,BCCWJ LBe9_00043)

(15) 「だからどうしようっていうの？」

(エリザベス・ゲイジ/北條元子(訳)(1995)『タブー』扶桑社,BCCWJ LBj9_00001)

また、同じく「いう」の後に「のだ」や「の」を伴う形ではあるが、相手に説明を求めて使わ

れるのではなく、発言の裏に「いや違う」という意味を含んで相手に反論する形で使われているものもあった。

(16) 「わたくしが誰のために働いていると思うてるの？誘拐犯のためだっていうの？あなた、どうかしてるんじゃない？」

(J・アンダーウッド/斉藤伯好(訳)(1990)『最後のゲーム』講談社,BCCWJ LB9_00177)

(17) 「何もかもが空っぽさ。よく分かっている。酒飲んでもどうにもならないってことぐらい。でも、じゃあどうやって時間を潰せばいいっていうんだ。結局、僕の人生はどうやって時間を潰していくかってことなんだ。(後省略)」

(平島幹(1992)『タン・ナピ・ナピ-バリ終わらない夏の島-』ゲイン,BCCWJ LB9_00192)

(16)では、「誘拐犯のためだっていうの？」の後には「いや違う、誘拐犯のためではない」という意味が、(17)では「どうやって時間を潰せばいいっていうんだ」の後ろには「他に時間を潰す方法はないだろう」という意味が隠されている。

現実会話でも、次の(18)のように上昇調のイントネーションで「ッテ+いう+の」という形が相手に確認する際に用いられている例も見られたが、上の(14)~(17)のような相手の説明を求めたり、相手に反論したりするために用いる「ッテ+いう+の／のだ」の用例は見られなかった。

- (18) 01A あの人はほんとに面白い。
02B あ。そうなんですか。
03A そう。トーク番組ってゆうの？
04B ふーん。

(CEJC T001_009 131.769- 135.233)

このことから、「ッテ+いう」に「の／のだ」後続させて、相手の説明を求めたり、相手に反論したりするという引用文の形は、小説内会話特有であると言える。

このような表現は、相手に説明を求めたり、反論したりという機能の他に、話し手自身の強い感情も同時に表していると考えられる。小説内会話は、現実会話のように目の前の人に対して話すだけの会話ではない。小説内会話は単に登場人物同士の会話ではなく、その小説を読んでいる人に対しても気持ちを表す会話でなければならない。それゆえ、日常会話にみられないような、強い感情を伴った表現が現れるのではないだろうか。

6. まとめ

本稿では、レジスターの異なる会話中で「ッテ+動詞」という形の引用文はどのように現れているのか調査するために、現実会話と小説内会話中の「ッテ+動詞」の使用傾向を調査した。

その結果、レジスターが異なるといえども、両会話中で共通して引用標識「ッテ」に後続する品詞は動詞が最も多く、特に「いう」が後続することが最も多いことがわかった。しかし、「ッテ+いう」の使用を具体的に見ていくと、現実会話中では、先行する話の内容の一部を話し手自身が再度引用して新たな表現として引用部に取り込む「ッテ+いう。」という引用表

現、小説内会話よりも多く出現していた。一方小説内会話では、話し手の強い感情を表すために使われるような「(疑問詞) + ッテ + いう + の / のだ?」の形が特有の表現として表れていた。この点が、レジスターが異なる会話における「ッテ + 動詞」引用文の使用傾向の違いの一部であると言える。では、なぜこのようなレジスター間の使用の違いが生まれたのだろうか。

現実の日常会話は、小説の会話と異なり、目の前にいる相手の理解度や話の流れによって、再度同じ内容を挟みこみながら進んでいく。だが小説内の会話はあくまで「ストーリー」の一部であり、目の前の相手の理解度を調整しながら進んだりはしない。現実会話のように、同じ内容を新たな表現として再度会話中に引用することも可能だろうが、もしそうしたら、先行研究で述べたように、そこには「作者の意図」を読者は感じるだろう。逆にその「作者の意図」を読者に感じさせるために、つまり登場人物の感情的な気持ちを読者に表すために、小説内会話では現実会話ではあまり使われてない「どうしたっていうの?」や「何をしたっていうの?」と言った引用文を使うのではないだろうか。

今回、主に「ッテ + いう」という一引用文の形式を異なるレジスター間でみたが、同じ「会話」といっても、レジスターが異なれば使用傾向は異なっていた。今後は更にレジスターの異なる会話中の文法項目を比較し、使用傾向を探ることで、現実の会話の特徴を明らかにしていきたい。

文 献

- 加藤陽子(2010). 『話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』 くろしお出版
- 鎌田修(2000). 『日本語の引用』 ひつじ書房
- 金水敏(2014). 「フィクションの話し言葉について」 石黒圭・橋本行洋(編) 『話し言葉と書き言葉の接点』 pp.3-11, ひつじ書房
- 小磯花絵, 居關友里子, 白田泰如, 柏野和佳子, 川端良子, 田中弥生, 伝康晴, 西川賢哉 (2017). 「『日本語日常会話コーパス』の構築」 『言語処理学会第23回年次大会発表論文集』 pp.775-778
- 小西円(2011). 「使用傾向を記述する—伝聞の[ソウダ]を例に—」 森篤嗣・庵功雄(編) 『日本語教育文法のための多様なアプローチ』 pp.159-181, ひつじ書房
- 清水まさ子(2020). 「現実会話と小説内会話における引用文の使用傾向—「ッテ + 動詞」の形を中心に—」 『国文目白』 59, pp.7-15, 日本女子大学
- 藤田保幸(2000). 『国語引用構文の研究』 和泉書院
- 山崎誠・柏野和佳子・宮寄由美(2019). 「BCCWJ 小説会話文への話者情報の付与とその活用」 『言語資源活用ワークショップ2019発表論文集』 pp.313-320, 国立国語研究所

付記

- ・本研究は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究（略称「日常会話コーパス」）」の研究成果および日本学術振興会・科学研究費補助金「会話文への発話者情報の付与によるコーパスの拡張(JP15H03212 代表:山崎誠)による成果である。
- ・本稿は上記文献中の清水まさ子(2020)を転載したものである。